

総集編

本シリーズは、03年11月号より連載を開始し、これまで県内12の社会福祉法人(施設)の地域貢献事業の実践を紹介してきました。

三位一体の改革や地方分権が進められる中で、地方自治体の裁量が強化され、その地域の実情に応じた福祉施策や公費投入が求められています。

このような状況の下、社会福祉法人は民間社会福祉事業の主たる担い手としての役割を果たし、高い公益性に基づいた事業を積極的に展開すること、法人の存在意義を地域社会に理解してもらう取り組みが求められています。

地域には、潜在的な福祉ニーズや、既存の制度では対応できないニーズが多数存在します。これらに対し、社会福祉法人がこれまで培ってきた専門性やノウハウを最大限活用し、対応することで、地域福祉の推進を図ることが期待されています。こうした地域貢献事業が県内全ての法人が実践す

このシリーズで紹介した法人のチャレンジ(一部)

福)与勝福祉会・津堅島におけるサテライト型デイサービス「津堅いこいの家事業」

高齢化率38%の津堅島において、民家を改修しサテライト型デイサービスを実施。

高齢になってもずっと生まれた島で暮らし続けたい！という住民の願いを受け止め、法人として出来る限りの支援を行うという姿勢が浮き彫りになりました。



福)名護学院・「障害者就業・生活支援センター事業」

障害を持つ方々の就労と地域生活を両面から支援する。一人ひとりの特性に沿った就労や生活の支援を実施する中で、社会福祉法人だけではなく地域の様々な社会資源(教育機関・医療・地元の企業等)とのネットワークを構築し、障害を持つ方のライフステージを通じた総合的な支援体制の構築を図っています。



福)松嶺会・在宅老人夜間巡回(ナイトパトロール)福祉サービス事業

施設職員と地域ボランティア(福祉隣り組)が、市内遠隔地・山村地域に住む独居老人等を夜間巡回訪問し、安否確認等を行う。高齢者世帯の夜間の見守り活動を実施。地域の潜在能力を引き出し、地域の福祉力を高めるための施設の関わり方が見えました。

介護実習・普及センター介護技術が海を渡る(南大東島編)



「起こす」動きの体験・介助の体験



「立つ」動きの体験・介助の体験



「階段を昇る」ためのポイント
やさしい介助の方法を



「階段を2人で上げる」
動きの体験・介助の体験

1月24日(火)、南大東村保健センターにて在宅介護者の方を中心に地域介護教室を開催いたしました。

介護技術を習得するだけでなく、福祉用具の普及も行ないながら、介護者の負担軽減と、やさしい介助と楽しい介助在宅介護で困っている場面を想定し、「できる方法」を伝えるなかで、受講者は終始和やかな雰囲気の中にも真剣に講義に聞き入っていました。

受講された方から、「参加して一番思った事は、介護が必要とされる方も大変かと思いますが、介護される側は如何に大変か身にしみて感じました。そして介護法を学習する事によって介助者の負担がかかる事を実感しました。」と、離島における介護講座がなく、介護者独自で大変負担な介護を強いられいている現状の南大東島に今後、より多くの開催を希望しています。」と、お願いされながら本講座を終了しました。

はあとふるケア

「移動用リフト」ってなあに？

1. 「移動用リフト」とは

自力で移動ができない方に「体」を吊り上げ、ベッドから車いす、トイレ、浴室などの間を移動するもの。

2. 種類

①固定式リフト

居室、浴室などに固定し吊り具を使用し可動範囲内を移動する。

②床走行式リフト

吊り具を使用し体を持ち上げキャスターで床を移動する。

③据置式リフト

ベッドの上やぐらを組んで走行用レール内を移動する。(図2)

④天井走行リフト

自宅内天井にレールを取り付けることにより、吊り具のまま移動が可能。(図3)

3. 展示場に設置されているリフト

②床走行式リフト、③据置式リフト

4. 介護実習室に設置されているリフト

④天井走行リフト

